

西国巡礼慈悲の道

西国第二十七番

書寫山

圓教寺

地球の怒り

山主 大樹孝啓

今年の梅雨は雨の多い年で、九州・中国・中部・東北の各地方は特に豪雨による大水の氾濫と山崩れによる土積流によって人や車、家までも流されての大被害が出ました。中でも死者、行方不明になられた方々もあり、痛恨の極みです。衷心よりご冥福をお祈りするばかりです。このような自然の災害は世界各地でも起きています。これらの惨状を見るにつけ「地球の怒り」だと思えてなりません。その上に、科学の発達は侵してはならない領域にまで踏み込んでいるようにも思えてなりません。その上、人が人を殺す争いも絶えません。この地球は神仏の智慧と慈悲によって作られ、そこに私達は生かされて貰っているということを忘れていないでしょうか？

西国三十三所の観音霊場は一千年続いて参拝が絶えません。まさしく観音様の

お慈悲を信じ感謝と祈りを捧げてきました。日本人の

素晴らしい宗教心です。花

山法皇の一千年の遠忌法要

や慶讃事業も魔事なく終わ

りました。これを機に益々

信仰を深め、菩薩道に努め

なければ成りません。在家

の菩薩道として六行が示さ

れています。

○布施―「忘己利他」と言

われるように、自分より

も回りの人の事を大事に

しましょう。

○持戒―せめて五戒を守り、

自分で自分を戒めましょ

う。

○忍辱―苦しい事、つらい

事にも耐える強い心を持

ちましましょう。

○精進―一生懸命に努力

して、永く続けるように

努めましょ。

○禅定―時には一人静か

に、心を落ち着けて考え

たり、反省もましょ。

○智慧―これらの事に努め

れば、観音様の心に近い

正しいチエが授かるでし

よう。

これらは、伝教大師最澄

上人が、日本国を在家の菩

薩でうずめ、浄仏国土を作

ろうとされた大目標達成の

為の項目であり、今の社会

においても、一人ひとりが

心がけるべき大切な佛の教

えであります。少しずつで

も守り実行したならば、素

晴らしい日本になるでし

う。

「南無観世音菩薩」

西国第二十七番

書寫山 圓教寺

えんぎょうじ

天台宗

御本尊／六臂如意輪觀世音菩薩 開基／性空上人

はるばると のぼればしよしゃの やまおろし

まつひびきも みのりなるらん

観音風光

立木観音とも言われる生木尊を直々に参拝された有名な方が二人いらっしゃいます。天禄元年の性空上人造立以来、秘仏となっていた生木観音を勅命で開扉参拝された後白河法皇。そして弘安二年後宇多天皇の勅願によって七間四面に改築新装直後の弘安十年には、一遍上人が参詣され、播磨行脚は偏に、如意輪観音に出合うことと言われています。

主な年中行事

- 一月十八日 修正会・鬼追い会式 (摩尼殿御本尊御開帳)
 - 二月三日 星祭・節分会豆まき
 - 二月八日 花山法皇御忌法要
 - 三月六日正午～九日正午 法華經不断読誦会 (開山堂性空上人像御開帳)
 - 三月十日 胎藏界曼荼羅供 (開山堂性空上人像御開帳)
 - 三月彼岸中日 春季彼岸施餓鬼会 (開山堂性空上人像御開帳)
 - 四月十日 開山忌 (開山堂性空上人像御開帳)
 - 八月九日 四万六千日会
 - 九月彼岸中日 秋季彼岸施餓鬼会
 - 十二月十四・十五・十六日 三千仏礼拝行 (一般参加可)
- 毎十日開山性空上人忌、毎十八日観音講、毎二十三日地藏講会、毎二十八日護摩供、毎第三土曜日坐禪会 (参加自由・無料)、奇数月十六日大般若会

〒671-2201 兵庫県姫路市書写2968

TEL 050-3532-2379・079-266-3327/FAX 079-266-4908 <http://www.shosha.or.jp/>

納経時間 ロープウェイ営業時間に合わせ、年間を通して朝は午前8時30分。

最終は4月1日～10月10日＝午後6時 (日祝日午後7時)。

10月11日～11月30日＝午後5時 (日祝日午後6時)。

12月1日～2月末日＝午後5時。3月1日～31日＝午後6時。

仏教用語一口解説

六根清浄とは

仏法では、衆生の苦悩の原因は心に生じる煩惱から引き起こされるものと解釈しています。その煩惱を起こす、種々の要因が入ってくる器官を六根と呼びます。「六根」とは、眼・鼻・耳・舌・身・意(識)の6つの事。目に見える誘惑、聞こえてくるお世辞、鼻先に臭う誘惑、分を知らない貪り、恥じるべき行動、他人を陥れて自分だけ良くなろうという気持ち。是に惑わされない自分が大切です。いつも六根を清く保つ事が煩惱の執着から逃れるのに必要なのです。

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。